

会長巻頭言

5月3日、「みやぎ街道交流会」が産声をあげました。松島湾の野々島^{ののしま}で地域の活動報告の報告や、寒風沢^{さぶさわ}での地酒を酌み交わしながらの談笑に、交流会を立ち上げた熱い思いが参加した方々に伝わったことと思います。

今から30年前の昭和52年、文化庁が全国の歴史の道の調査に着手しています。その成果は「歴史の道調査報告書」としてまとめられ、私たちが古道を踏査するときの道しるべとなり、必要不可欠の記録です。この事業は、官の仕事として終始したので、調査員の報告書作成で終わっています。

今回の交流会は、地域の文化を街道と河川というラインで結ぶことが目的の一つでしょう。地域にはまだまだ光を当てられるのを待っている文化遺産や歴史がたくさんあります。

岩手県ですが仙台領の水沢から秋田県の仙北地方を結ぶ街道を仙北街道といいます。この道は胆沢町(奥州市)と秋田県東成瀬村の人々が力を合わせて復元し、9ヶ所に平成道標を建てています。

最近の河北新報には、古代大野東人が大群を率いて通った道である軽井沢越^{かるいざわこえ}銀山街道を踏破した記事が目を引きました。

6月9日～10日には、羽州街道交流会金山大会が予定されています。このように各地での街道の研究・踏査が進められています。

東山道^{とうさんどう}や東街道^{あづかいどう}という古代の道を地道に踏査している方、江戸時代の国道が荒れ放題で消滅するのを嘆いている方、あるいは最近では近代の文化遺産が脚光をあび関心を持っておられる方や、道への関心はあるがどう切り込んでよいか迷っておられる方などたくさんおられると思います。これらの方々と情報を交換しながら、皆さんとともに楽しい交流会を育てていきたいと思っています。

みやぎ街道交流会 会長 高倉 淳

「みやぎ街道交流会ニュース第2号(H19.6.2発行)」

みやぎ街道交流会 第1回交流大会 in 栗原」を終えて

「みやぎ街道交流会」の第1回交流大会 in 栗原」は、地域の皆様のご支援を得て盛会裡に終わることが出来ました。皆さんが力を合わせればこのように盛り上がるのかということを感じた二日間でした。

大会冒頭の挨拶で、私は次のようなお話をしました。今までの文化財や街道・史跡への接し方は、点やラインの文化が中心でした。具体的には、点としての金成の史跡・有壁本陣などで、その点と点を結ぶのが街道です。この道は、古代以来多くの人や物が流通し、歴史が形成され、文化が育ってきました。

この点やラインの外に、皆さんが参加する「面」の文化があります。静かな池に投げられた小石は波紋を広げていきます。私は「点・線・面」が大切であると思います。

そして、面については「K・M・T」の3点セットと申し上げました。地域の方が「郷土」を愛し、歴史に「興味」・「関心」を持つと、今まで見えなかったものが見えるようになります。これが「K」です。そうするともっと知りたいと、頭や体が動き始めます。炉辺談話があつたり、サークル活動などが生き生きとしてきます。これがムービングの「M」です。その「語り合い」や「踏査」は「楽しい」に越したことはありません。「T」です。大会第2部の盃を傾けながら、時のたつのを忘れて語り合った「街道談義」はその最たるものでしょう。

挨拶で割愛しましたが、交流の輪が広がることによって、文化財の保護・継承につながります。10月に私は岩手県一戸町の奥州街道に、多くの一里塚が残っていることに興味を持ち出かけてきました。案内してくれた人が「中山一里塚の東塚は昭和50年代になくなり、間宿(あいのしゅく)中山の間口19間、奥行き9間、明治天皇もお休みになった家が、軒の家に造り替えられました」と聞き、交流会があれば保存されたのにと思いました。

「みやぎ街道交流会」は、第1回交流大会 in 栗原」で学んだことを生かし、地域の活動とタイアップして進んでいきたいと思っています。

みやぎ街道交流会 会長 高倉 淳

「みやぎ街道交流会第1回交流大会 in 栗原報告書」(H19.11.17・18開催)より

新年を迎えて

新年おめでとうございます。

昨年は、5月に松島湾に浮かぶ寒風沢で「みやぎ街道交流会」を立ち上げ、11月17日・18日には、栗原市で行われた「第一回交流会 in 栗原」で盛会裡にしめくることが出来ました。

交流会二年目に当たる今年は、東北各地で活動しておられる方や、街道に興味・関心をもっておられる方々が、宮城県に参集され、活発な討議と、街道史跡めぐりや懇談が予定されています。

私たちが生活している所には豊かな歴史や文化が埋蔵されています。これらの文化や歴史に光りをあてようと、研究・活動しておられる方や、交流を通して、今まで見えなかったものが見え、歩きながら仲間と話し合いの楽しさを知られた方々もたくさんおられます。

七ヶ宿町で行っている「町おこしのイベント「わらじで歩こう七ヶ宿」はその最たるもので、参加した人々は羽州街道の歴史を肌で感じられたと思います。その先には、湯原宿（宮城県）・楢下宿・高畠宿（山形）の「三宿サミット（三宿地域連携協議会）」があります。

街道には、村境や県境はありません。境を越えて人々が交流し、地域の文化がラインとして結びつき、広がり談笑が生まれます。

しかし一方、開発によって、街道や周辺の歴史が消滅しているのが現状です。開発だけでなく、先祖の残してくれた貴重な文化遺産を知らずに無造作に壊されているのも事実です。

昨年、私は戦後開拓に入った岩手県一戸町に奥州街道と一里塚が多く残っているということを聞き訪ねてみました。案内をしてくれた人が、「中山一里塚の東塚は昭和50年代になり...、間宿（あいのしゆく）中山の間口19間、奥行き9間、明治天皇もお休みになった家は、軒の家に造り替えられました...」と話されたのを聞き、交流会があれば保存されたのにと思いました。

今まで受け継がれてきた文化遺産は次の世代に受け継ぐのが、現代に生きる私たちの努めです。このためにも上からのお仕着せではなく、楽しみながら交流の場が広がっていくことを願って、新年のご挨拶とします。

みやぎ街道交流会 会長 高倉 淳

「みやぎ街道交流会ニュース第5号（H20.2.20発行）」巻頭言より

新年 (平成 21年) を迎えて

みやぎ街道交流会会長 高倉淳

今年はおバマ政権誕生一色で始まった感があります。その人気の一因は、官と民が一体となったからでしょう。私たちの交流会も民が交流の場を求めて誕生しました。



松島/雄島の初日の出 (撮影/京野副会長)

平成 19年 5月に「みやぎ街道交流会」が松島湾に浮かぶ東廻り航路の拠点寒風沢で立ち上げ、皆様のご協力という順風を受けて、11月には栗原市で「in 栗原」を、翌 20年 5月には戊辰戦争・奥羽列藩同盟締結 140年の口火を切った関で「in セケ宿」、そして11月には「とほく街道会議 仙台・宮城大会」が行われ、いずれも盛会・好評裡に終わっています。これらに参加して、また会場で配布される資料によって各地の活動を思うとき、街道への関心が高まり、熱気のようなものを肌感じます。

みやぎ街道交流会 規約 3条 2項に「街道ならびに地域資源の保存・継承に関する実践と支援に関する事項」があります。宮城県で奥州街道がよく残されているラインが 3箇所あります。一つは大衡村、二・三番が栗原市の高清水と金成から一関の区間です。

大衡村はトヨタ自動車の企業進出によって大半が消滅しました。交流会では、奥州街道の景観を後世に伝えるために映像で残すことにし、宮城県の土木部道路課・教育委員会文化財保護課、大衡村と連携をとり、昨年はまだ残雪の消えないころから文化財課の発掘調査が終わるまで足しげく通い、カメラに収めました。発掘の結果は全国でも類例のない成果をあげ、私たちも目にすることが出来ました。

二番・三番の栗原市の奥州街道のうち、金成から有壁本陣と肘曲坂をセットとして楽しみ、岩手県境を越えて国道 4号と合流するまで江戸時代の景観を楽しむ事が出来ます。起点の金成には多くの史跡があり、炭焼藤太の忠実と伝承など点と線の宝がたくさんあり、今、栗原市が観光開発に取り組んでいます。

私たち交流会は面として交流の輪をひろげ、今年も大いに楽しみましょう。関心を持つといろいろなものが見えてきます。見えた新発見を肴にして歓談すると、また一步前に進みたくなります。交流の輪が広がれば地域に残された文化遺産を正しく後世に伝えていくことを祈念しながら新年のご挨拶とします。

[事務局から]

・大衡村の奥州街道の記録は高倉会長のホームページでご覧頂けます。

<http://senketu2112.hp.infoseek.co.jp/oohiramura-ousyuukaido.html>

<http://www42.tok2.com/home/kaidoumiyagi/>

「会員へ Eメール又は郵送にて」